

ソマビア事務局長との思い

尾辻 秀久

(元厚生労働大臣)
参議院議員

ソマビア事務局長との最初の出会い

私が厚生労働大臣の職にあった二〇〇四年一二月、ILOソマビア事務局長が就任後二度目の来日を果たされた。来日の目的は、第一に東京で開催される厚生労働省・ILO・国連大学共催のシンポジウムへの出席、第二に宮崎で開催されるICFTU(国際自由労連)世界大会への出席である。この機会に事務局長と私は厚生労働省において会談を持ち、私からは、当時の日本の懸案であった公務員制度改革等の案件について触れさせていただき、

事務局長にご理解いただいた。

事務局長からは、ILOの置かれた状況とその予算についてかなり詳細な説明があり、日本の協力を求められたが、私からは日本の財政状況が非常に厳しいことについて述べさせていただいたことを記憶している。日本の責任として財政負担を行うことを理解しているものの、厚生労働省の予算全体がマイナスとなるなど厳しい財政状況の下で分担金を国民に負担願う必要があるということとを事務局長に理解していただくとともに、ILOにおける有効な予算の活用を是非にお願いしたかったため

ある。

また、ソマビア事務局長を囲んでの夕食会の時も、大いに盛り上がったものである。私が事務局長のご出身であるチリのワインを持参したところ、それがたまたま事務局長のお好きなワインであり、それを機に私たちはすっかり意気投合したのだった。私は若い時にヒッピーで世界中を回っていたが、その時にチリで遭遇したエピソードなどもお話するなど、事務局長とは話が尽きず、私たちの親交はいよいよ深まった。余談だが、夕食会を行った六本木において、ソマビア事務局長は前回の訪日の際に子供にサンタクロースと間違えられたことがあり、会食の際にそのことに笑いながら触れられたことも懐かしく思い出される。

変わらぬ友情

それ以来、私たちの友情は長く続いている。昨年五月に事務局長が再度来日された時、私はすでに厚生労働大臣ではなかったが、私たちは夕食を共にし、四年前の会

食を思い出して旧交を温めた。

八月に私がジュネーブを訪れた際には、昼食にお招きをいただき、楽しいひと時を過ごすことができた。昼食後、ソマビア事務局長自らがILO本部ビルの中を案内をして下さり、理事会の会議場や展示物、歴代事務局長の肖像画などについて説明をいただいた。また、一月にソマビア事務局長が三選を果たされた時、私はソマビア事務局長が世界の労使のためにさらに活躍されることを喜び、祝福の花束を贈った。

ソマビア事務局長が提唱し、ILOが普及に努めている「ディーセント・ワーク」という概念は、現在、世界中で受け入れられていると同時に、金融危機を皮切りにさまざまな雇用不安が顕在化する日本においても指針となるべき考え方である。

ILOは九〇周年を迎え、その重要性はいよいよ増している。ILOが今後とも変わらず労働における重要な役割を果たし続けることを期待している。